

2019年4月

会員 各位

本協会の社員総会などでご報告してまいりました、「AMED-SST研究班の3年間の研究事業」をまとめて、冊子「主体的人生のための統合失調症リハビリ支援— 当事者との共同創造co-production によるSST実践マニュアル」を作成することができました。これまでご支援いただいていた本協会会員の皆様にこの冊子をCD化したものを1部ずつニュースレターとともにご送付申し上げます。

この冊子の内容をまとめてスライド化したものをPDFデータとして会員の皆様が閲覧することができるようにしたものがこのファイルです。冊子の概要を知って頂ければと願い作成いたしましたので、ご活用いただければ幸いです。

AMED-SST研究は日本医療研究開発機構AMED・障害者対策総合研究事業・精神障害分野 ④精神疾患の標準的治療ガイドラインの策定に関する研究の一つ「主体的人生のための統合失調症リハビリ支援— 当事者との共同創造co-productionによる実践ガイドライン策定」(研究代表者、群馬大学・福田正人教授)の一分野として行われました。研究を担ったのはSST普及協会の会員です。それは次の方々です。

1) 領域1班 「当事者の人生の時間軸に沿い、リハビリを支える SST」

大川浩子(北海道文教大学)、永井優子(自治医科大学看護学部)、高木友徳(仁大病院)、的場文子(メンタルクリニック Matoba)、吉田匡伸(札幌なかまの杜クリニック)、飯島久香(東京福祉大学)、池田耕治(訪問看護ステーション アトラス福岡)、皿田洋子(福岡大学)

2) 領域2班 「みんなのやってみたい!を応援する SST の工夫」

坂本浩(兵庫医療大学)、村本好孝(ここから)、木村尚美(ひだクリニック)、瀧本優子(梅花女子大学)、伊藤佐絵子(ひだクリニック)、河岸光子(吉祥寺病院)、吉田みゆき(同朋大学)、的場文子(メンタルクリニック Matoba)、安西信雄(帝京平成大学)

3) 領域3班 「SST と認知機能リハビリテーションを併用した場合の効果検証」

松宮千士里(就労移行支援事業所 TODAY)、村松秀樹(放送大学 教養学部 教養学科)、松浦彰久(埼玉精神神経センター)、今関あやね(日本うつ病センター)、松本斎人(南勢病院)

4) 領域4班 「被災当事者支援の SST」

片柳光昭(みやぎ心のケアセンター)、天笠崇(代々木病院精神科)、高森祐樹(弓削病院)、伊神敬人(豊田西病院)、河島京美(練馬区社会福祉協議会)、浅見隆康(群馬大学健康支援総合センター)、丹羽真一(福島医大・会津医療センター)

「SST の発展を通じた統合失調症リハビリ支援、被災当事者支援」の本研究は、統合失調症のリハビリを支援する上で、SST を有効に実践する指針を定め、SST を一層発展させることを目的としました。SST 普及協会の会員はじめ当事者のリハビリに SST を活用したいと願う全ての人が本冊子を活用して SST が実施され、実際に統合失調症当事者のリハビリが進むことを心から願うものです。

※本内容は、会員の方に公開しております。会員の方はログインしてから会員専用ページをご覧ください。非会員の方は、会員登録されてからご覧ください。

AMED-SST 研究 研究分担者

一般社団法人 SST 普及協会 会長 丹羽真一